取扱説明書

卓上オートコレーター　LC－400

ご使用になる前に、この「取扱説明書」をよく
お読みください。また、いつでもお読みになれる
よう保管場所を決めて、大切に保管してください。

● ご使用の前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
● ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、危害や損害を未然に防止するためのものです。
● 「安全上の注意」に使用されている絵表示の例。

△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。（左図の場合は高温注意）

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。（左図の場合は分解禁止）

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）

安全上の注意

⚠警　告	
⃠	交流１００Ｖ以外の電圧で使用しないでください。またタコ足配線しないでください。火災・感電のおそれがあります。
	この機器の上に花瓶・植木鉢・コップや水の入った容器を置かないでください。こぼれたり、水が中に入った場合、火災・感電のおそれがあります。
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。 また、コードの上に重いものを乗せたり、引っぱったり、無理に曲げようとすると電源コードを傷め、火災・感電のおそれがあります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電のおそれがあります。
⃠	この機器のカバーは外さないでください。 感電やけがのおそれがあります。
	この機器の分解はしないでください。 感電やけがのおそれがあります。
●	発熱していたり、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電のおそれがあります。すぐに電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。そして販売店までご連絡ください。
	異物（金属片・水・液体）が機器の内部に入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店までご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電のおそれがあります。

⚠注　意	
	駆動部分には絶対に手を触れないでください。 けがの原因になります。
	髪の毛・ネクタイ・ネックレス等をローラーなどの駆動部に近づけないでください。けがの原因になります。
	ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。 落ちたり、倒れたりしてけがの原因になります。
	湿気やほこりの多い場所に置かないでください。 火災・感電の原因になります。
	電源コードを抜く時は、必ずプラグを持って抜いてください。 電源コードを持って引っぱるとコードが傷つき、火災・感電の原因になります。
	給紙テーブル・補助テーブル・排紙テーブル・転倒防止板が正しくセットされているか、確認してください。外れてけがの原因になります。また、給紙テーブル・補助テーブルの取付け、取外しの際は、機械の転倒に充分注意してください。
	本機器を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 コードが傷つき、火災・感電の原因になります。
	連休等で長時間本機をご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

はじめに

ご使用になる前に、この「取扱説明書」をよくお読みください。
特に「⚠警告」、「⚠注意」は必ずお読みの上、正しくお使いください。
この「取扱説明書」は、必要な時にいつでもお読みになれるように保管場所を決めて、大切に保管してください。
この製品は改良のために、仕様を変更する場合があります。このため同一製品においても「取扱説明書」の記載内容が異なる場合がありますので、製品ごとの「取扱説明書」を混同して使用しないでください。

目　次

１．　設置前の注意事項
　１．１　設置について　…… 6
　１．２　設置場所の確認　…… 7
　１．３　付属品の種類・数量の確認　…… 8

２．　製品各部の名称
　２．１　外観　…… 9
　２．２　操作パネル部　…… １０

３．　特に注意していただきたいこと
　３．１　用語の定義
　　３．１．１　マーク解説　…… １２
　　３．１．２　用語解説　…… １２
　３．２　特徴および使用目的　…… １２
　３．３　使用しないとき　…… １２

４．　使用前の準備
　４．１　付属品を取付ける　…… １３
　４．２　給紙圧の設定　…… １６
　４．３　セパレーター圧の設定　…… １６

５．　使用方法
５．１　操作の手順と方法
５．１．１　電源ＯＮ …… １７
５．１．２　用紙のセット …… １７
５．１．３　排紙ガイド・ポールのセット …… １９
５．１．４　丁合 …… ２０
５．２　カウンター
５．２．１　加算モード …… ２０
５．２．２　減算モード …… ２１
５．３　速度切替え …… ２１
５．４　全段／連段切替え …… ２１
５．５　区分け　有／無 …… ２２
５．６　合紙モード …… ２３
５．７　伝票モード …… ２４
５．８　合紙／伝票データの記憶 …… ２５
５．９　合紙／伝票データの呼出し …… ２５
５．１０リピート機能 …… ２６
５．１１単独／２台連結の切替え …… ２７
５．１２給紙発光強度の変更 …… ２７
５．１２．１システム定数“Ｐ”の変更 …… ２８

６．　保守・点検・消耗品
６．１　点検・お手入れ時の注意事項 …… ２８
６．２　日常のお手入れ …… ２９
６．３　消耗品について …… ３０

７．　トラブル時の処置
７．１　ランプ点灯／点滅時の対処 …… ３１
７．２　トラブルの内容と処置 …… ３２
７．３　故障の場合 …… ３３

８．　移設または廃棄するとき
８．１　移設
８．１．１　旧設置場所からの撤去作業 …… ３４
８．１．２　運搬 …… ３４
８．１．３　移設先での設置 …… ３４
８．２　廃棄 …… ３４

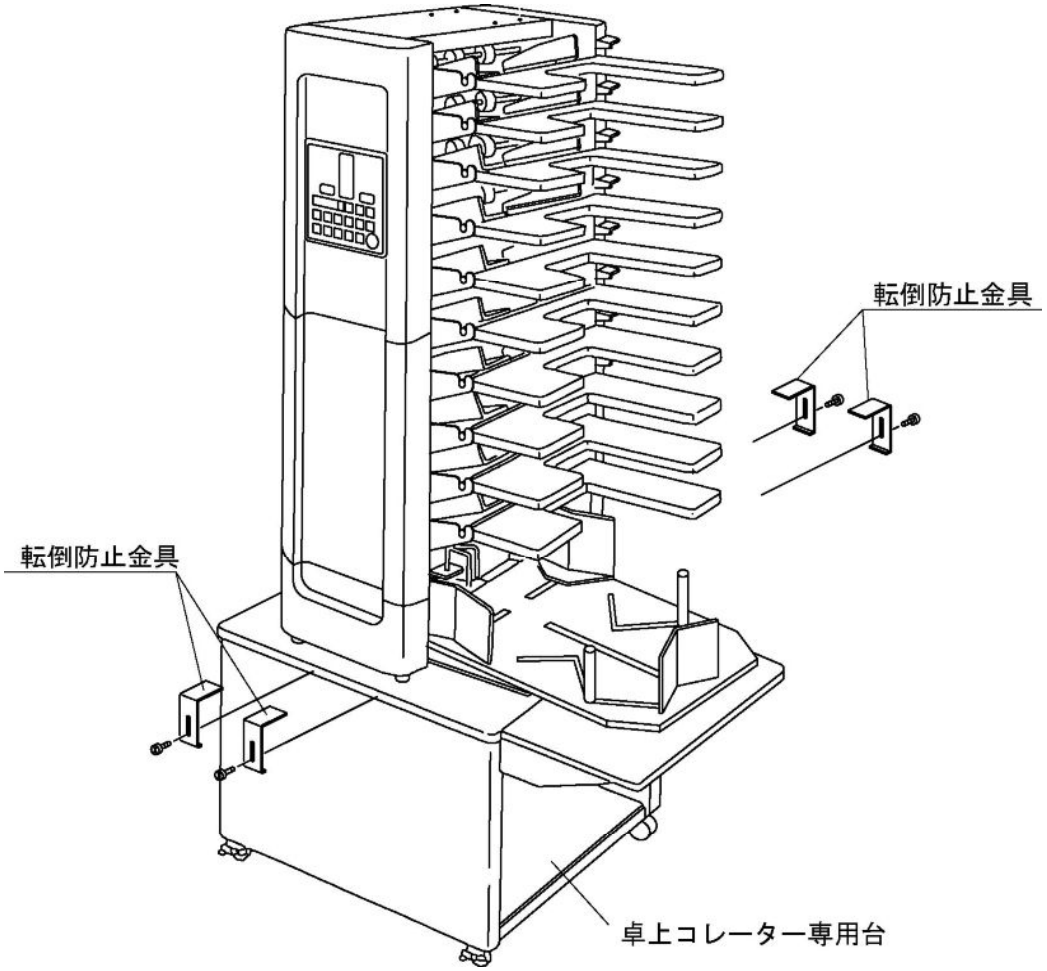
９．　製品仕様
９．１　仕様 …… ３５
９．２　オプションについて …… ３６

1．　設置前の注意事項

1．1　設置について

⚠注　意	
⃠	卓上コレーター専用台の上にコレーターを設置してください。 ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。 落ちたり、倒れたりしてけがの原因になります。
	湿気やほこりの多い場所に置かないでください。 火災・感電の原因になります。

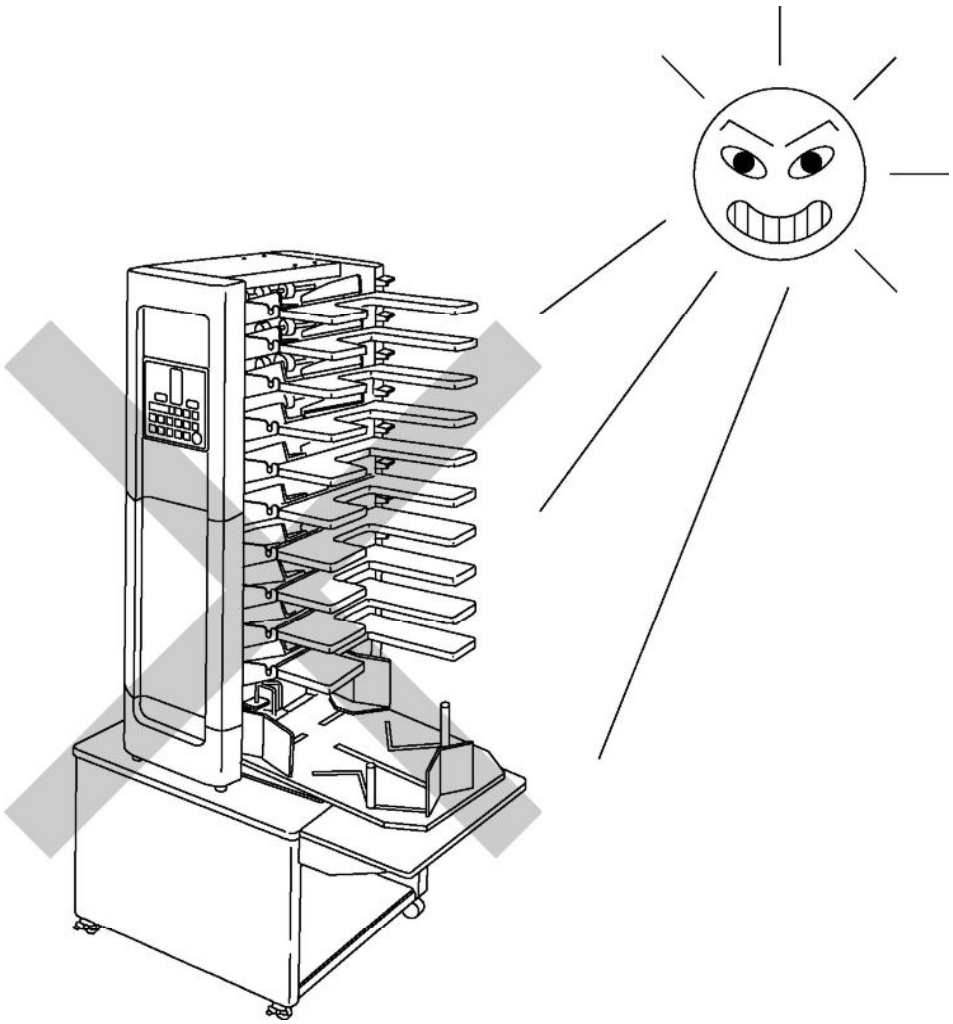
※本機を設置する場合は、卓上コレーター専用台（オプション）を使用してください。
卓上コレーター専用台には転倒防止金具等の安全対策がしてあり、またコレーター単体でも後処理機（ステープラパンチ等）連結時でも全体の平行が保てるよう設計されています。
※コレーター使用中及びコレーターの付近で作業をしているとき、本機に寄り掛かったりしないでください。転倒の恐れがあります。
※コレーター本体を移動するとき、本体の上部を押すと転倒する恐れがありますので移動する際は卓上コレーター専用台を持って移動してください。
※コレーターを設置したとき、転倒の恐れがある場合は壁固定金具（別売）にてコレーターを壁に固定してご使用ください。



１．２　設置場所の確認

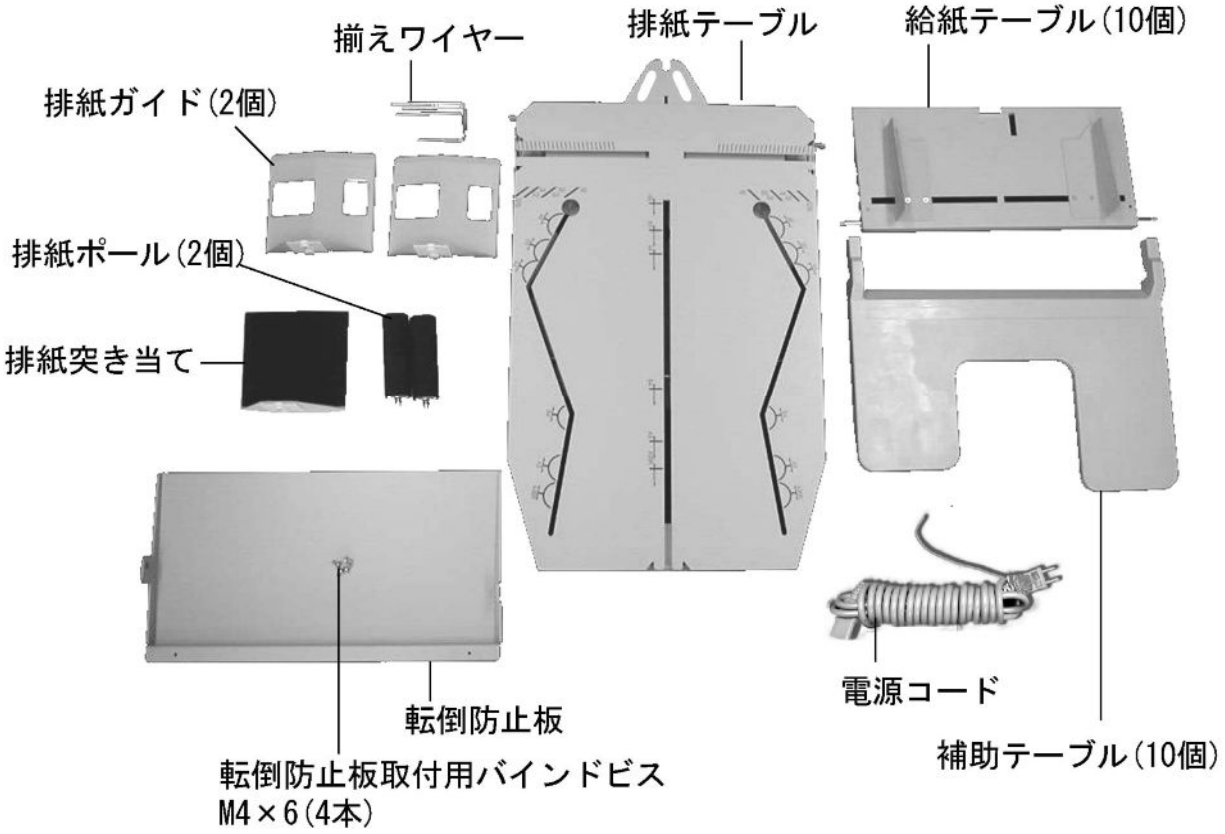
次のような場所は安全上、また機械の故障になりますので、避けてください。

・高温・低温の場所
　室温は５～３５℃の範囲でご使用ください。
・水などが飛び散り、漏電を起こす危険性のある場所
・暖房器具に近い場所
・風が直接当たる場所
・換気の悪い、狭い場所や暗い場所
・窓際等の直接光が当たる場所に設置すると光センサーが誤動作する事があるので、設置場所を移動するか、太陽をさえぎる厚手のカーテン等で光を遮断するようにしてください。



1．3　付属品の種類・数量の確認

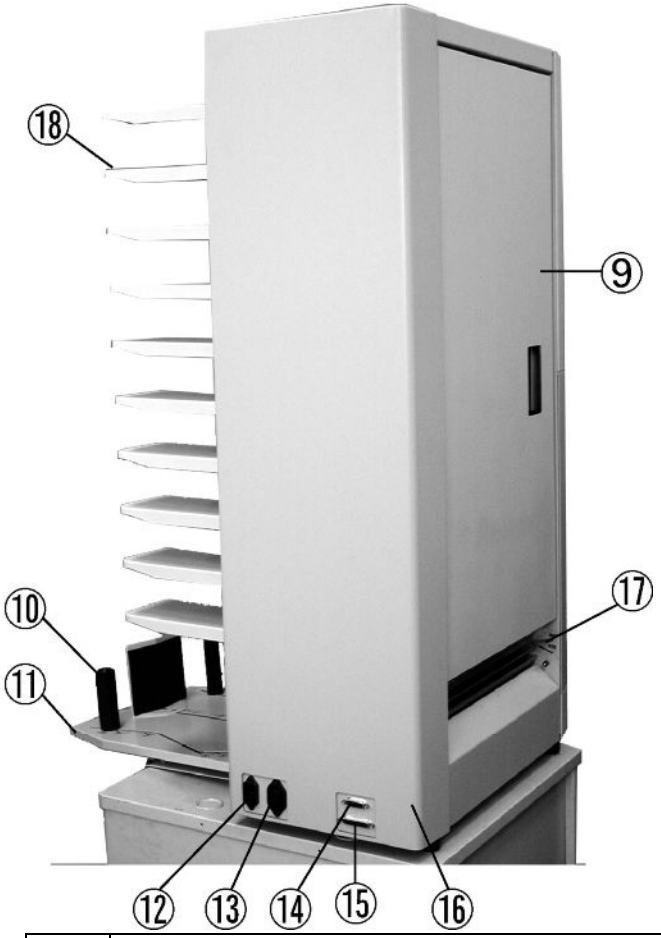
開梱したら、付属品の確認をしてください。
万一不足していたらすぐに販売店に連絡してください。
また、保証書の記入をお願いします。
※L機には、排紙テーブル・揃えワイヤー・排紙ガイド（2個）・排紙ポール（2個）・排紙突き当ては付いていません。

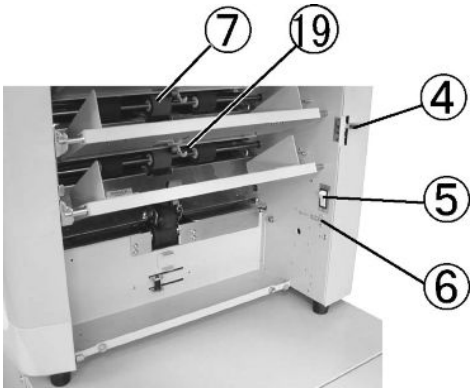


ガイド固定ネジ(２個)

2．　製品各部の名称

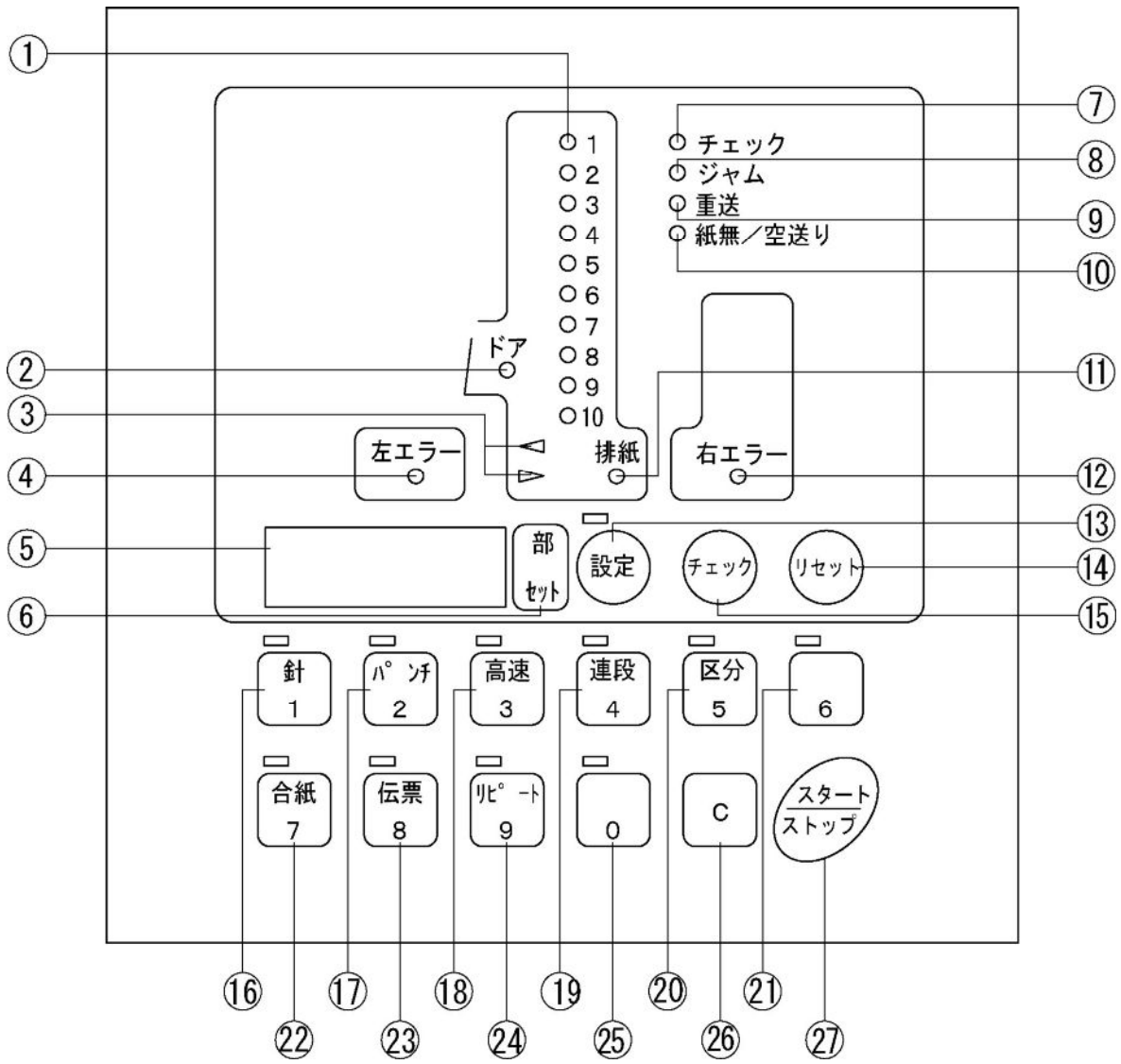
2．1　外観





番号	名　称
①	操作パネル
②	用紙ガイド
③	給紙テーブル
④	給紙圧切替えレバー
⑤	電源スイッチ
⑥	ブレーカ
⑦	給紙ローラー
⑧	左カバー
⑨	バックドア
⑩	排紙ポール
⑪	排紙テーブル
⑫	インレット
⑬	アウトレット（オプションのステープラパンチ・スタッカー接続用）
⑭	右コネクタ（右タワー接続用）
⑮	左コネクタ（オプション・左タワー接続用）
⑯	右カバー
⑰	排紙切替えレバー
⑱	補助テーブル
⑲	紙検ワイヤー

2．2　操作パネル部



番号	名　称	働　き
①	段ランプ	１～１０段の状態を表示
②	ドアランプ	バックドアが開いている時点灯
③	◀▶	緑点灯時用紙の流れる方向を表示
④	左エラーランプ	赤点灯時左側のコレーターに異常が発生した事を表示
⑤	カウンター	丁合数を表示 エラー発生時には〔Ｅｒｒ　〕と表示
⑥	部・セット	合紙モード、プログラム合紙モード表示ランプ
⑦	チェックランプ	チェックが済んでいると緑に点灯
⑧	ジャムランプ	ジャム（紙詰まり）発生時赤点灯
⑨	重送ランプ	重送発生時赤点滅

番号	名　称	働　き
⑩	紙無／空送りランプ	紙無し／空送り発生時緑点滅 紙無し：その段が遅い点滅 空送り：その段が速い点滅
⑪	排紙ランプ	排紙ジャム／排紙満杯時点灯
⑫	右エラーランプ	赤点灯時右側のコレーターに異常が発生した事を表示
⑬	「設定」キー	緑点灯時各種機能設定可能状態 数字キー上の機能を使う時は、最初に「設定」キーを押して緑点灯させてから各種機能設定可能となる（５秒後に自動消灯）
⑭	「リセット」キー	エラーを解除するキー ３秒以上押し続けると給紙テーブルが下がる 待機状態で３秒以上押し続けるとメインモーターが空回転する
⑮	「チェック」キー	試し送りをするキー 使用する段、セットされている紙の厚さを記憶させる
⑯	「針／１」キー	緑点灯時ステープル加工「有」、消灯時「無」 数字「１」はカウンター入力
⑰	「パンチ／２」キー	緑点灯時パンチ加工「有」、消灯時「無」 数字「２」はカウンター入力
⑱	「高速／３」キー	緑点灯時高速丁合、消灯時低速丁合 数字「３」はカウンター入力
⑲	「連段／４」キー	緑点灯時連段、消灯時全段 数字「４」はカウンター入力
⑳	「区分／５」キー	緑点灯時区分け「有」、消灯時「無」 ※Ｌ機は区分け機能なし 数字「５」はカウンター入力
㉑	「６」キー	緑点灯時２台連結、消灯時Ｌ機単独 カウンター入力
㉒	「合紙／７」キー	緑点灯時合紙モード 数字「７」はカウンター入力
㉓	「伝票／８」キー	緑点灯時伝票モード 数字「８」はカウンター入力
㉔	「リピート／９」キー	設定丁合部数終了後区分けする動作を繰り返し行う 数字「９」はカウンター入力
㉕	「０」キー	カウンター入力
㉖	「クリア」キー	カウンター表示をクリアする 「設定」点灯を消灯させる事も可能
㉗	「スタート／ストップ」キー	丁合動作の開始／停止を行う

3．　特に注意していただきたいこと

3．1　用語の定義

3．1．1　マーク解説

注意！　　注意していただきたいことです。
ポイント！　　知っていると便利なことです。

3．1．2　用語解説

名　称	解　説
ジャム	用紙が機械内部で詰まること
重送	２枚以上重ねて給紙すること
スリップ	用紙が送り込まれないこと
さばく	用紙同士がはりついている状態を空気を入れてはがすこと

3．2　特徴および使用目的

・印刷やコピーした書類を自動的にページ順に組み合わせることができます。
・連段丁合が可能です。連段とは、２段を１組として５段式のように使用するものです。
　用紙積載量が多い場合に利用すると便利です。
・給紙テーブルは電動で自動昇降するので、スピーディなセッティングができます。

3．3　使用しないとき

・電源プラグをコンセントからはずしてください。
・機械カバーを掛けてください。

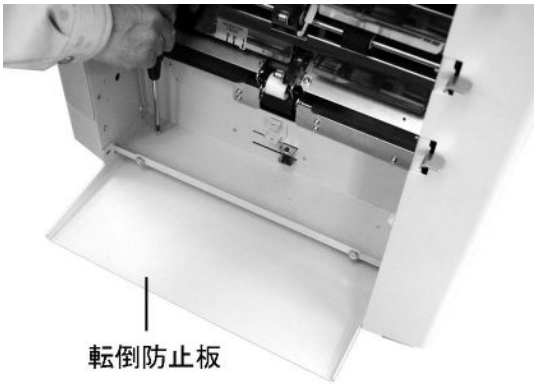
4．　使用前の準備

4．1　付属品を取付ける

1．転倒防止板の取付け

（1）転倒防止板を本体の下に差し込みます。

（2）本体と転倒防止板の穴位置を合わせて、付属のバインドビスＲＫ４×８（４本）で固定します。



2．電源コードの接続

（1）電源コードを反操作側にあるインレットに差し込みます。

（2）コンセントにプラグを差し込みます。

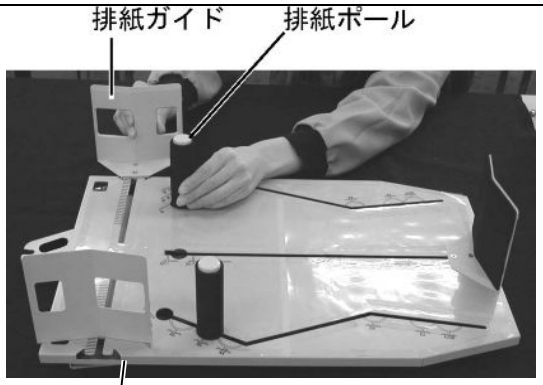
注意！
延長コードやタコ足配線は誤動作の原因になりやすいので、極力避けてください。

3．排紙テーブルの組立

（1）排紙テーブルに排紙ガイド（２個）を差し込みます。向きを間違えないよう注意してください。

（2）排紙ポール（２個）を穴に差し込み、溝に沿って移動させて取付けます。

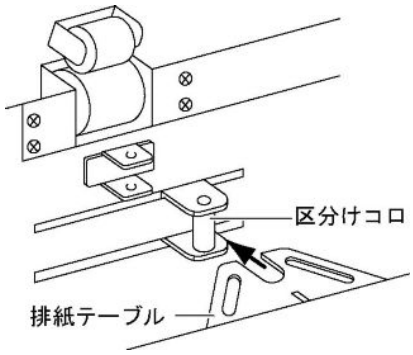
（3）排紙ガイドを差し込んだ後、ガイド固定ネジを取り付けます。(左右各１ヶ所)



ガイド固定ネジ
(左右各１ヶ所)

４．排紙テーブルのセット

（１）排紙テーブル奥の凹部を本体の区分けコロに差し込みながら、前足ゴム台のフック（２ヵ所）に排紙テーブルのフック（ダルマ状）を差し込みます。
排紙テーブルの凹部をコロに差し込んだ後、排紙テーブルを左右どちらかに傾け（区分けコロが右にある場合は右に、左にある場合は左に）、排紙テーブルフックを前足ゴム台フックの隙間に差し込みます。このとき、左右とも確実に差し込まれていることを確認してください。



注意！

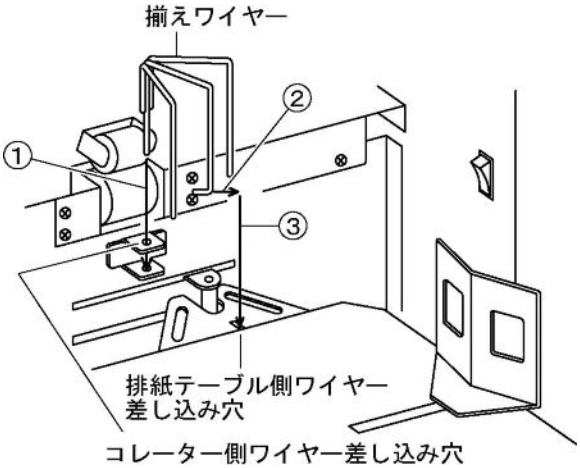
排紙テーブルの凹部が区分けコロに正しくセットされていないとチェックまたはスタートキーを押したとき、カウンタ部に「Ｌｏｃｋ」が表示されます。このまま続けて機械を動作させると、区分けモータが故障するおそれがあります。この場合一度電源 OFF し、排紙テーブルを本体より外した状態で機械を通常動作させ、区分けコロが左右に移動して「Ｌｏｃｋ」表示が出ないことを確認してもう一度取扱説明書に従って正しくセットし直してください。

（排紙テーブルを外しても区分けコロが左右に動かない場合は販売店に連絡してください）

「設定」→「区分」キー３秒押しで区分けコロが１回動作します。

（２）揃えワイヤーを取付けます。

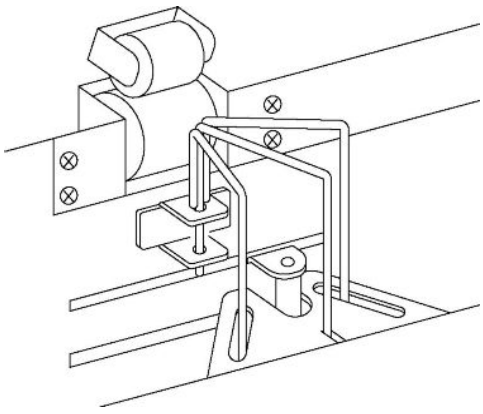
① 排紙テーブルをコレーターに取付けた後、揃えワイヤーの後ろ側をコレーター側ワイヤー差し込み穴に差し込みます。
② 揃えワイヤーの先端の曲がっている部分を指で摘んで手前に引き寄せ、排紙テーブル側ワイヤー差し込み穴に合わせます。
③ 先端の曲がっている部分をそのまま排紙テーブル側ワイヤー差し込み穴に差し込みます。



注意！

・排紙テーブルの取付けは確実に行ってください。不完全な取付けは、機械のロックまたは排紙ジャムの原因となります。

・稼働部に手を挟まれないよう注意してください。

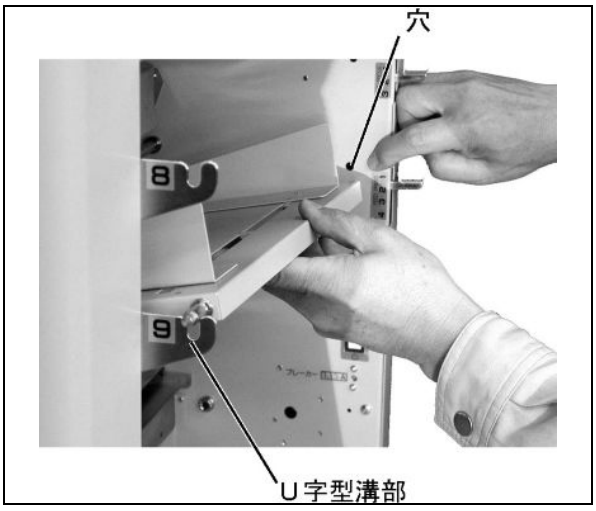


⚠注　意	
❗	給紙テーブル・補助テーブル・排紙テーブルが正しくセットされているか、確認してください。外れてけがの原因になります。また、給紙テーブル・補助テーブルの取付け、取外しの際は、機械の転倒に充分注意してください。

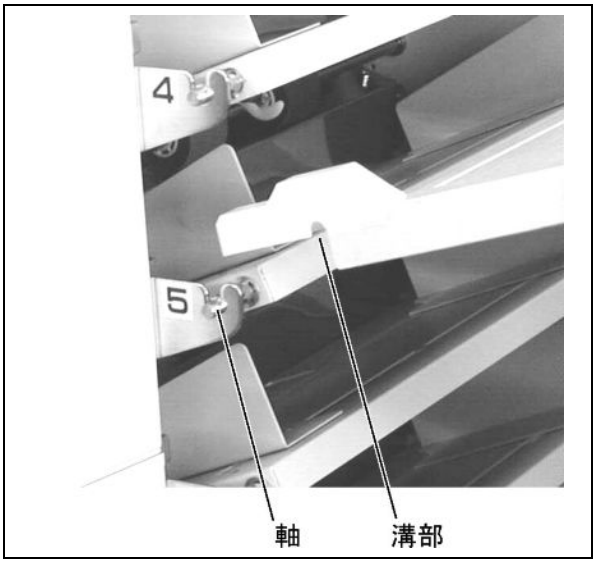
５．給紙テーブルのセット

（１）テーブルアップレバーが下がっていることを確認してください。下がっていない場合は、電源をＯＮして「リセット」キーを３秒以上押してレバーを下げてください。
通常、テーブルアップレバーは給紙テーブルの下側に位置し、このレバーが上昇することによって給紙テーブルが押し上げられます。したがって、レバーが給紙テーブルの上にあると給紙テーブルが上昇しないため、給紙することができません。

（２）反操作側にある穴に給紙テーブルの右側の軸を差し込み、左側をU字型溝の板金に載せます。



（３）給紙テーブルの左右の軸に補助テーブルの溝部をはめ込みます。



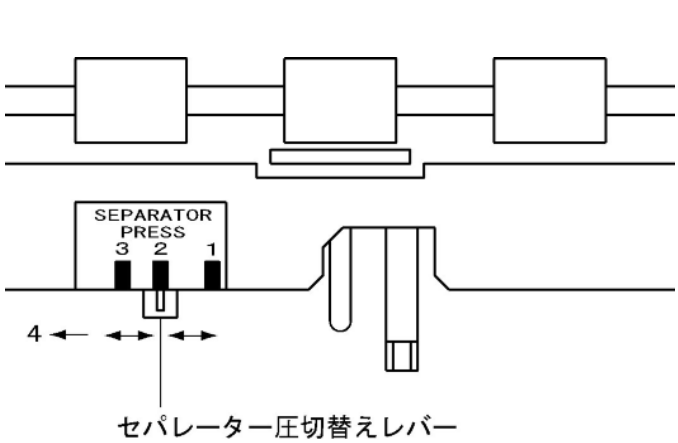
4．2　給紙圧の設定

通常（一般紙の場合）は、給紙圧切替えレバーを「2」の位置にセットします。
第1段と第１０段は4段切替え
第2段～第9段は3段切替え
重送が発生した時は「1」（弱）にします。
給紙スリップが発生した時は「3」（強）します。

4．3　セパレーター圧の設定

通常（一般紙の場合）は、セパレーター圧切替えレバーを「2」の位置にセットします。
セパレーター圧を切替える時は、給紙テーブルを外してください。
全段とも3段切替え
給紙スリップが発生した時は「1」（弱）にします。
重送が発生した時は「3」（強）にします。

※セパレーター圧の表示は「1」「2」「3」となっていますが、特殊なケースの場合に備え、「3」の左隣に「4」が内蔵されています。重送が多発して「3」でも重送が防げない時に使用してください。

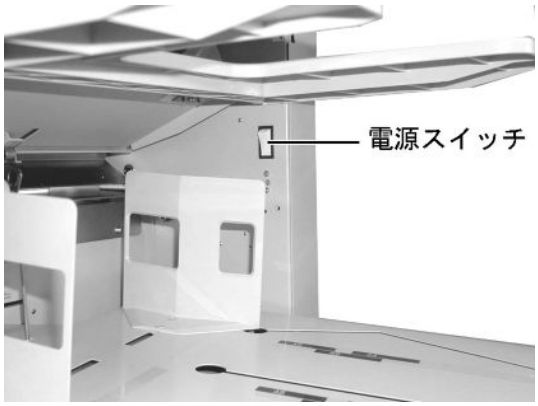


5．　使用方法

5．1　操作の手順と方法

5．1．1　電源ON

電源スイッチを入れます。

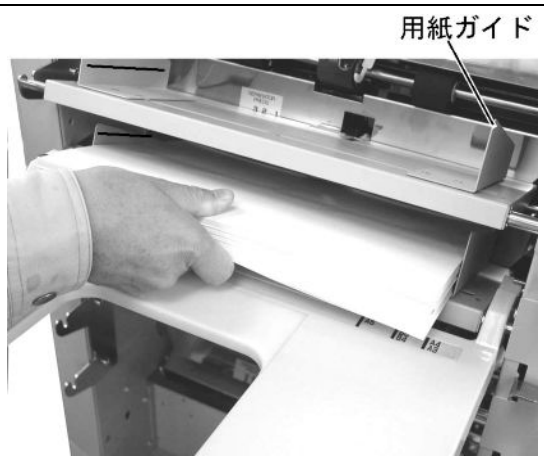


注意！

電源をONする前に必ず給紙テーブル・補助テーブル・排紙テーブルが確実にセットされている事を確認してください。

5．1．2　用紙のセット

（4）使用する用紙を給紙テーブルに載せ、用紙ガイドを用紙に密着させてください。



ポイント！

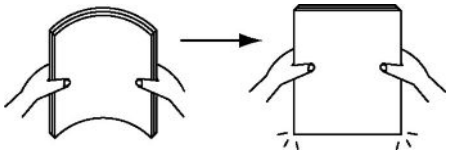
【用紙のさばき方】

①用紙の両端をつまみます。

②用紙を曲げて空気を入れます。

（軽く力をゆるめ､曲げてから再度用紙をつまむ）

③上下に用紙を揃えます。



注意！

・用紙積載量は目安として、用紙ガイド側面のライン以下です。ただし、印刷した用紙は膨らむため積みすぎないよう注意してください。

・用紙をよくさばいてください。さばかないまま使用すると重送等の原因になります。

・用紙は揃えて先端が軽く突き当たるまで差し込んでください。不揃いのまま使用すると空送りや重送の原因になります。

・印刷物のインキの乾きが不十分のまま使用すると機械が汚れるだけでなく、用紙表面のインキにより給紙ゴムローラー・用紙セパレーターが汚れ、空送りや重送の原因になります。

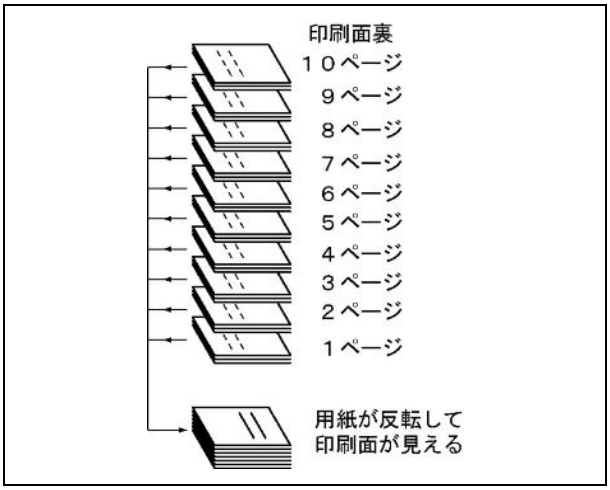
・コピー機等で複写した用紙には、静電気が帯電しているため、給紙不良や排紙不良が発生しやすくなります。給紙トラブルが発生する時は、用紙の先端及び給紙ゴムローラー等に静電気除去スプレー等を吹き付けてください。また、コピーした用紙は先端がカールしやすいのでカール矯正後セットし直すか、用紙を反転してセットしてください。

・ノンカーボン紙（一般的紙質）を丁合する場合、発色面（印刷面）を下側にしてセットしてください。発色面を上にセットすると給紙ゴムローラーのコスレ跡が若干出る事があります。

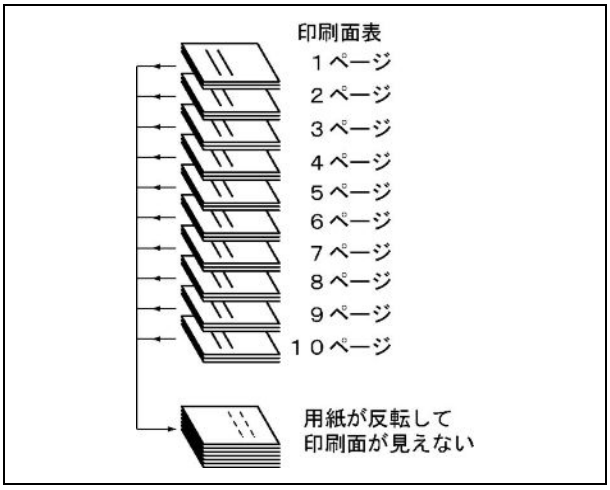
・排紙された用紙の表／裏は、排紙方向（単独／連結）により変わります。特にオプションを使用する場合は注意してください。

（2）用紙を給紙テーブルに載せる時の順序について

① 印刷面を裏にして載せる場合
下から順に上の給紙テーブルへページを積んでください。
この場合、1ページ目は一番上になって丁合されます。



② 印刷面を表にして載せる場合
上から順に給紙テーブルへページ順にセットしてください。用紙が裏返しの状態で排紙テーブルに排出されます。
この場合、1ページ目は一番下になって丁合されます。



ポイント！

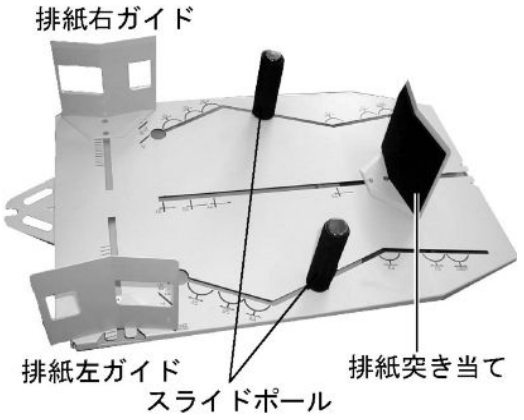
ページ数が少ない（10 段に満たない）時の用紙の積み方

・コレーター単独使用またはステープラパンチを連結して使用する場合
下の段（10 段目）から順に積んでください。
排紙の乱れが防げ、処理速度も速くなります。

・コレーターにオプション（コレーター2 台連結と大容量スタッカーと連結）を接続した場合
上の段（1 段目）から順に積んでください。
用紙詰まりを防止できます。

５．１．３　排紙ガイド・ポールのセット

排紙右・左ガイド・スライドポール（２本）・排紙突き当てをそれぞれ用紙サイズに合わせてセットします。排紙時に用紙がガイド類に引っ掛かったり、揃わない場合は各スライド部を前後左右に微調整してください。



注意！

・ハガキ・システム手帳サイズの用紙を使用する場合は、棒積み排紙のみとなります。

・排紙の揃え具合はコレーターの処理速度によって変化します。速度を高速にすると用紙がポール・ガイドに突き当たった後の跳ね返りが大きくなり、ズレも大きくなります。また、用紙が反っている場合は、高速の方がめくれやすくなり、揃えが悪くなります。
しかし、諸条件により、いちがいに低速の方が良く揃うとはいい切れないので様子を見ながら切替えてください。
用紙の種類によってコシの強いもの、弱いものがありこれが揃えに影響します。

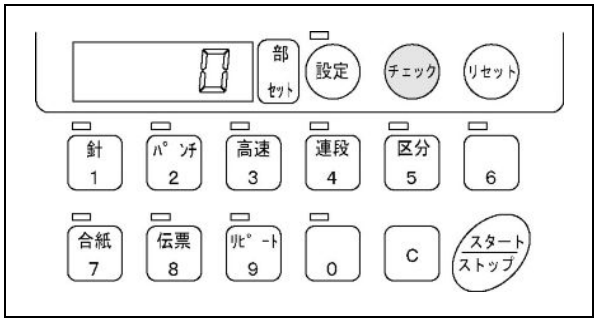
ポイント！

・排紙の揃えが悪い場合
→排紙テーブルに表示されているポール・ガイドの位置ゲージを目安にしてポール・ガイドを左方向に移動（ポール・ガイドと用紙の隙間が狭くなる方向）させます。また、排紙左右ガイドも位置ゲージを目安にして左右均一に内側（ガイド・ポールと用紙の隙間が狭くなる方向）に移動させます。
位置調整移動する場合は、一度に大きく移動させずに少しずつにし、排紙の揃え具合を見ながら行ってください。

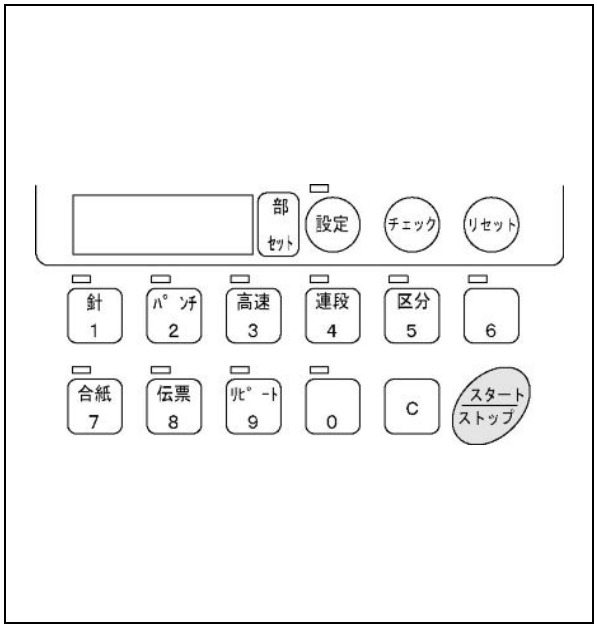
・排紙部でジャムが発生する場合
→排紙テーブルに表示されているポール・ガイドの位置ゲージを目安にしてポール・ガイドを右方向に移動（ポール・ガイドと用紙の隙間が広くなる方向）させます。また、排紙左右ガイドも位置ゲージを目安にして左右均一に外側（ガイド・ポールと用紙の隙間が広くなる方向）に移動させます。
位置調整移動する場合は、一度に大きく移動させずに少しずつにし、排紙の揃え具合を見ながら行ってください。

5．1．4　丁合

（1）「チェック」キーを押し、試し送りをします。
給紙テーブルが自動的に上昇し、各段にセットされた用紙がそれぞれ１枚（１丁合分）給紙されます。
用紙の向き、順番、給紙ミスがないか確認してください。



（2）チェックして問題がなければ「スタート／ストップ」キーを押して丁合作業を開始します。丁合を停止したい場合は再度「スタート／ストップ」キーを押します。



注意！

・給紙途中で電源を切らないでください。

・丁合中に給紙トラブルが発生した場合は、最後に排紙された１組は落丁しているので、不足のページを加えてください。なお、落丁した１組はカウントされません。

ポイント！

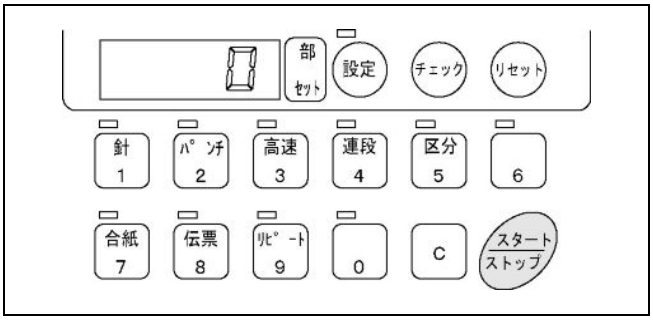
・給紙テーブルに積んだ用紙の最後の１枚が送られずに残る場合には、下に数枚白紙を積んでください。

・排紙された用紙の揃えが悪いときは、「５．１．３　排紙テーブルガイド・ポールのセット」を参考に調節してください。

5．2　カウンター

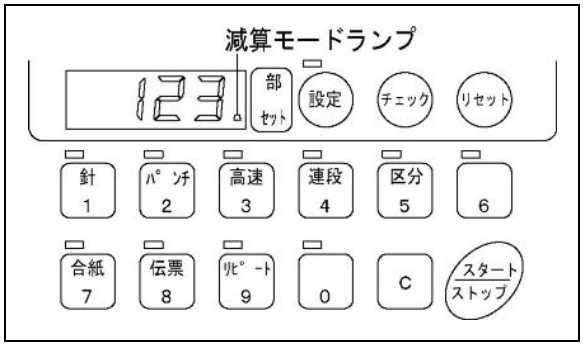
5．2．1　加算モード

通常は加算表示です。そのまま「スタート／ストップ」キーを押すと丁合を開始し、用紙が完全に排出されてから停止します。
カウンターには処理された丁合数が表示され、〔９９９９〕になると自動的に停止します。
継続して丁合をする場合は「スタート／ストップ」キーを押してください。カウンター表示は〔0〕となり、再び加算表示をします。



5．2．2　減算モード

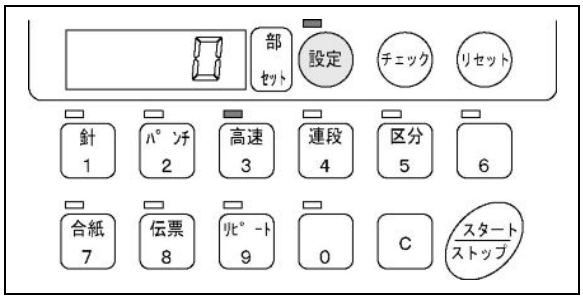
丁合数を数字キーで入力します。
数字キーを押すと自動的に減算モードランプが点灯します。
カウンターが〔0〕となった時停止します。
動作中に「スタート／ストップ」キーを押すと停止し、カウンターに残数を表示します。



5．3　速度切替え

丁合する用紙に合わせて速度を切替える事ができます

（1）「設定」キーを押して設定モードに切替えます。
（設定ランプ点灯）



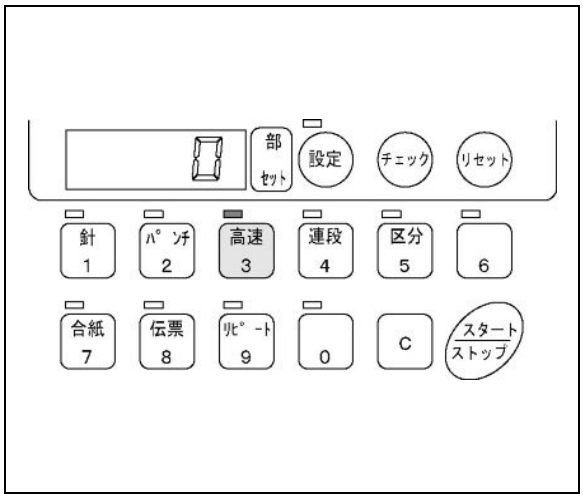
（2）「高速／3」キーを押して速度を切替えます。「設定」→「高速」キーを押すたびに速度が高速⇔低速に切替わります。
（高速：ランプ点灯，低速：ランプ消灯）

注意！

・速度を変えた場合は必ず「チェック」キーを押してから「スタート／ストップ」キーを押してください。用紙のチェックを行わないと再スタートできません。

ポイント！

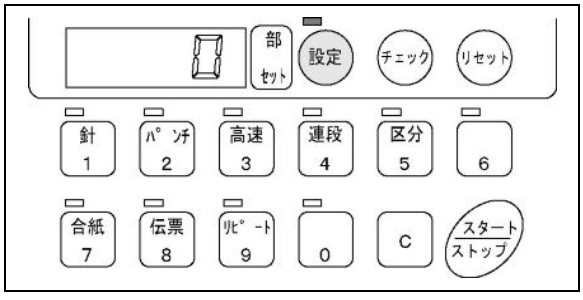
・速度設定は電源をＯＦＦした時の速度を機械が記憶していますので、次回使用時は前回使用した時の速度設定で開始します。
・排紙の揃えが悪い時は、速度を「低速」にすると排紙揃えがよくなります。



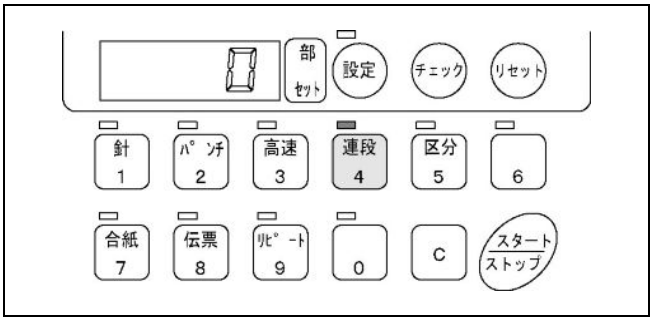
5．4　全段／連段切替え

少ページ、多数部の丁合作業では、2つの段を1つの段として扱う連段モードが便利です。
1台の機械で5ページまでの冊子を扱う事ができます。
電源投入時は「全段」になっています。

（1）「設定」キーを押して設定モードに切替えます。
（設定ランプ点灯）



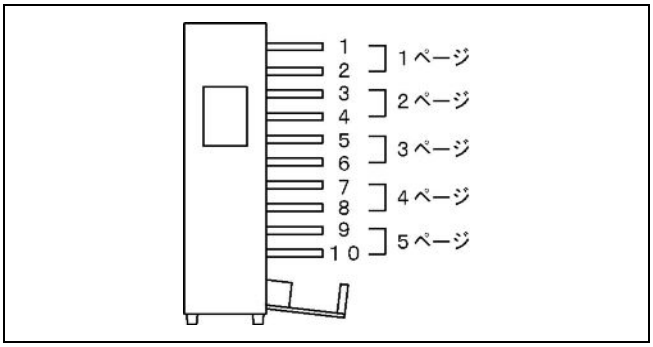
（2）「連段／４」キーを押して切替えます。
「設定」→「連段」キーを押すたびに全段⇔連段が切替わります。
（連段：ランプ点灯，全段：ランプ消灯）



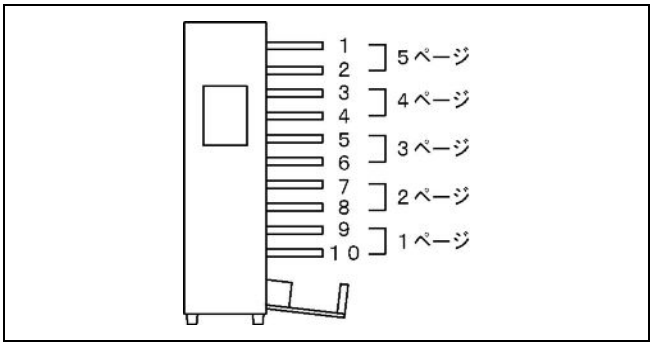
ポイント！

全段時の用紙積載量は３５０枚／ページ
連段時の用紙積載量は７００枚／ページ
です。（Ａ４上質５５kg使用時）

（3）用紙のセット方法
「連段」モードで印刷面を表にして載せる場合
奇数と偶数の段すなわち１と２の段、３と４の段、５と６の段、７と８の段、９と１０の段に同じページの用紙を分けて積みます。
奇数の給紙テーブルから給紙され、用紙がなくなると自動的に偶数の給紙テーブルから給紙されます。



「連段」モードで印刷面を裏にして載せる場合

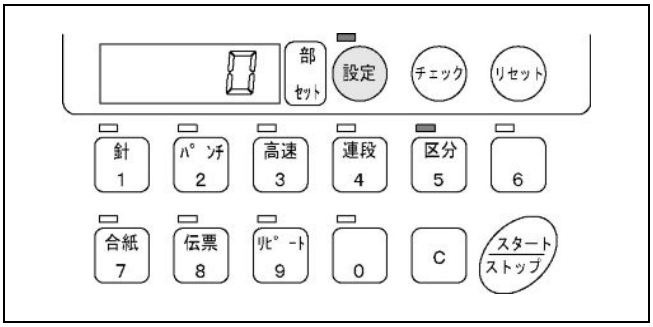


５．５　区分け　有／無

※Ｌ機は区分け機能がありません。

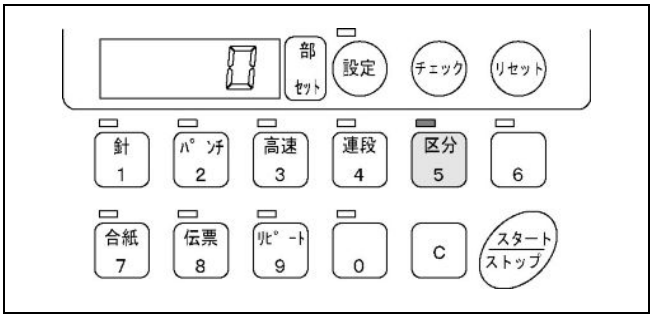
用途に合わせて区分けの有／無を切替える事ができます。
有：１セットずつ左右に交差して積まれます。
（ランプ点灯）
無：交差せず、そのまま棒積みになります。

（1）「設定」キーを押して設定モードに切替えます。（設定ランプ点灯）



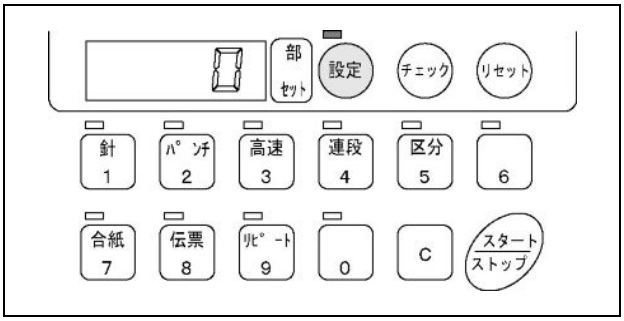
（2）「区分／５」キーを押して区分けの有／無を切替えます。
「設定」→「区分」キーを押すたびに区分けの有⇔無が切替わります。

電源投入時は、最後に使用した設定の状態になっています。



5．6　合紙モード

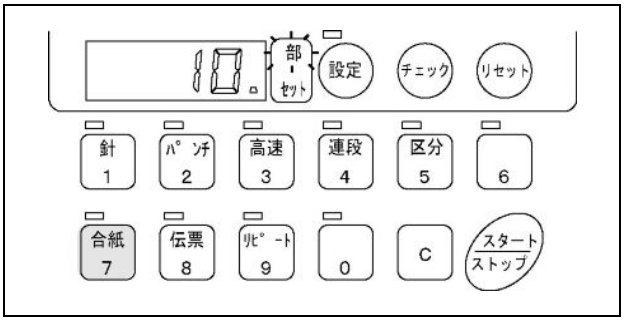
合紙機能は、設定部数毎に最上段にセットされた合紙を入れるモードです。同じ冊子を複数の部署に配布する場合に便利です。
単独時、２台連結時共に使用することができます。



（1）「設定」キーを押して設定モードに切替えます。（設定ランプ点灯）

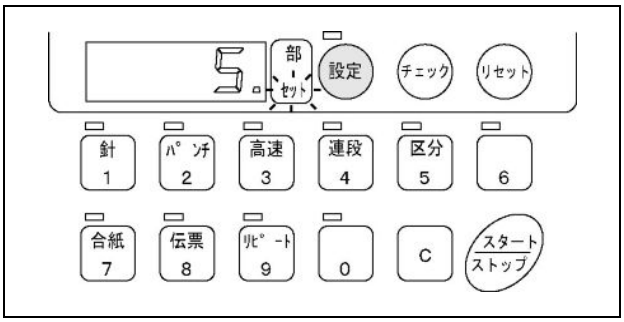
（2）「合紙／7」キーを３秒間押し続けると、カウンターが点滅するので部数を入力します。

＜例＞
部数として「１０」を入力



（3）「設定」キーを押すと、カウンター横の表示が「部」→「セット」に切替わるので、セット数を入力します。

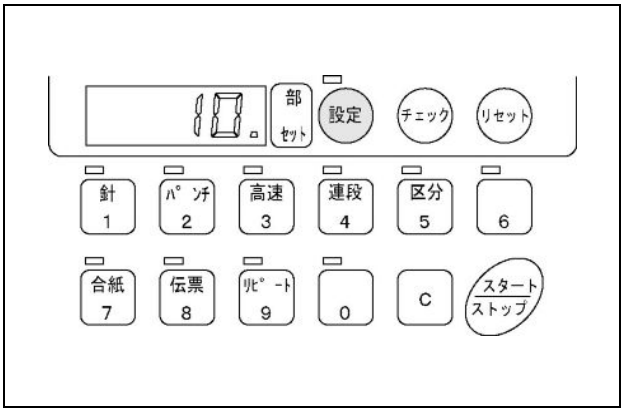
＜例＞
セット数として「5」を入力



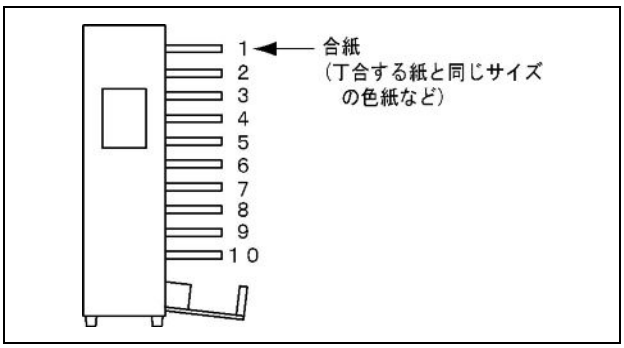
（4）「設定」キーを押すと、カウンターが点灯状態に戻り、先に入力した部数が表示されます。

ポイント！

・セット数に〔　　0〕を入力すると、用紙がなくなるまで合紙動作を続けます。
・合紙のセット数を確認するには、合紙モードで「設定」キーを押し続ける事によりセット数を表示する事ができます。
・合紙データを複数記憶する事もできます。詳細は「５．８合紙／伝票データの記憶」を参照してください。

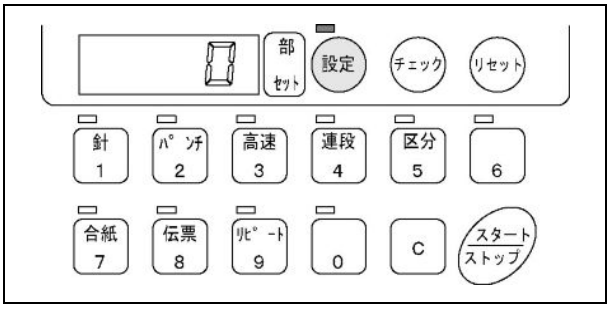


（5）用紙のセット方法
合紙は、使用する段の一番上の段に積みます。
例えば、上の段から続けて１０段を使用する場合は、１段目の段に合紙を積みます。



5．7　伝票モード

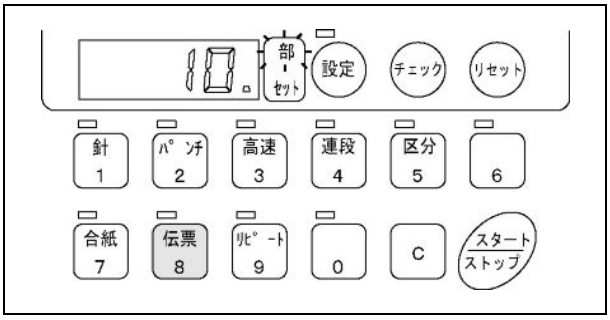
伝票機能は、設定部数毎に最上段／最下段にセットされた表紙／裏表紙を入れるモードです。伝票を作成する場合に便利です。
単独時のみ使用できます。



（1）「設定」キーを押して設定モードに切替えます。
（設定ランプ点灯）

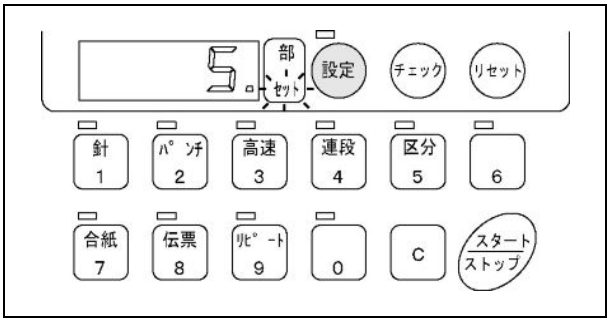
（2）「伝票／８」キーを３秒間押し続けると、カウンターが点滅するので綴り数（部数）を入力します。

＜例＞
部数として「１０」を入力



（3）「設定」キーを押すと、カウンター横の表示が「部」→「セット」に切替わるので、作成する伝票の冊数（セット数）を入力します。

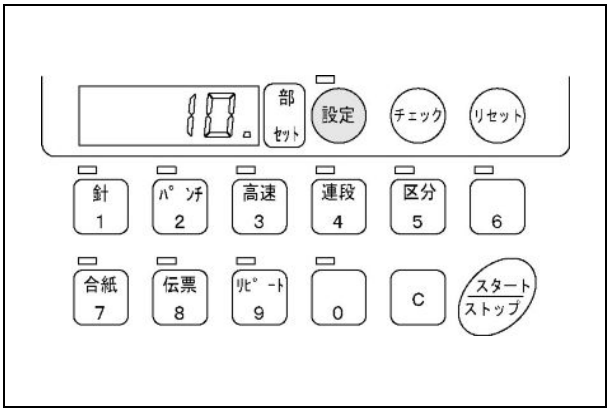
＜例＞
セット数として「５」を入力



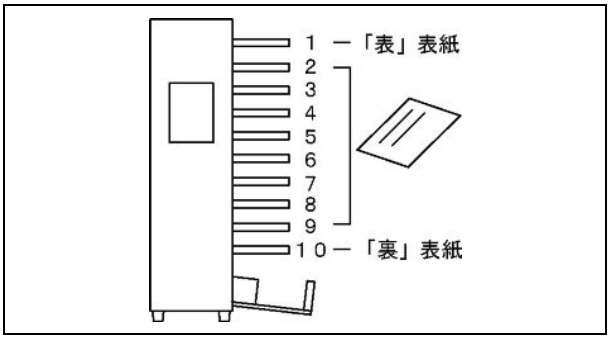
（4）「設定」キーを押すと、カウンターが点灯状態に戻り、先に入力した部数が表示されます。

ポイント！

・冊数（セット数）に〔　　0〕を入力すると、用紙がなくなるまで伝票動作を続けます。
・伝票の冊数（セット数）を確認するには、伝票モードで「設定」キーを押し続ける事により冊数（セット数）を表示する事ができます。
・伝票データを複数記憶する事もできます。詳細は「５．８合紙／伝票データの記憶」を参照してください。



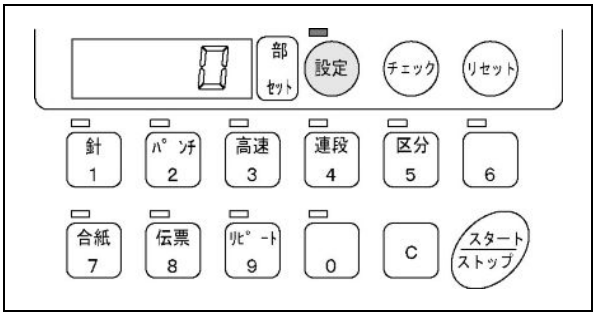
（5）用紙のセット方法
必ず印刷面を上にして積んでください。
例えば、上の段から続けて１０段を使用する場合は、１段目の段に「表」表紙、１０段目の段に「裏」表紙を積みます。
使用段が１０段以下の場合は、最下段に「裏」表紙を積み、使用段の最上段に「表」表紙を積みます。使用段が１０段以下の場合は、使用段数の最上段１を１番目と自動的に認識します。



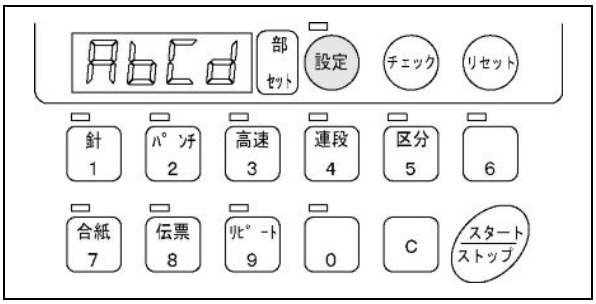
5．8　合紙／伝票データの記憶

合紙／伝票メモリは、最大４項まで記憶する事ができます。

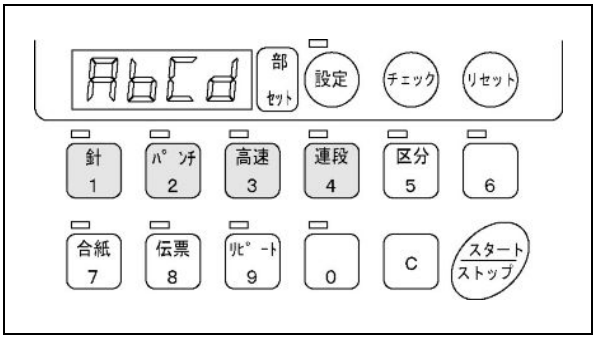
（1）「設定」キーを押して設定モードに切替えます。
（設定ランプ点灯）



（2）「設定」キーを３秒間押し続けると、カウンターにメモリ番号〔ＡｂＣｄ〕が表示されます。
・点滅しているメモリは空
・点灯しているメモリは既に使用
合紙／伝票メモリの内容を直接確認する事はできません。メモリの中身は、
「５．９合紙／伝票データの呼出し」を実行してから確認してください。

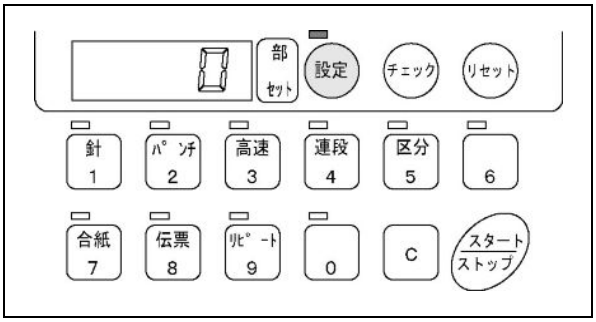


（3）メモリＡ～Ｄに相当するキーを３秒以上押し続け、記憶させます。
メモリＡ～Ｄはそれぞれ
メモリＡ：「１」キー
メモリＢ：「２」キー
メモリＣ：「３」キー
メモリＤ：「４」キー　　に対応しています。
メモリへの記憶をキャンセルする場合は「リセット」キーを押します。

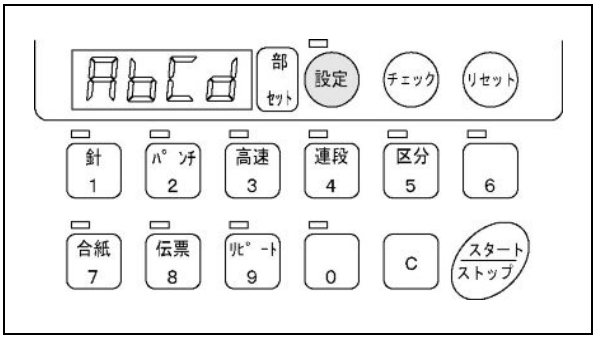


5．9　合紙／伝票データの呼出し

（1）「設定」キーを押して設定モードに切替えます。
（設定ランプ点灯）



（2）「設定」キーを３秒間押し続けると、カウンターにメモリ番号〔ＡｂＣｄ〕が表示されます。
・点滅しているメモリは空
・点灯しているメモリは既に使用

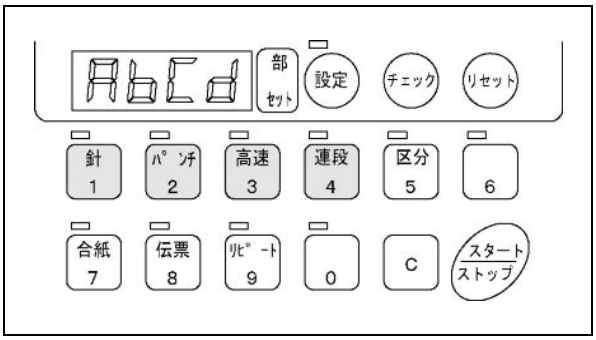


注意！

合紙/伝票メモリの内容を直接確認するには、メモリの中身を一度呼出す必要があります。

「５．６　合紙モード」
「５．７　伝票モード」　参照

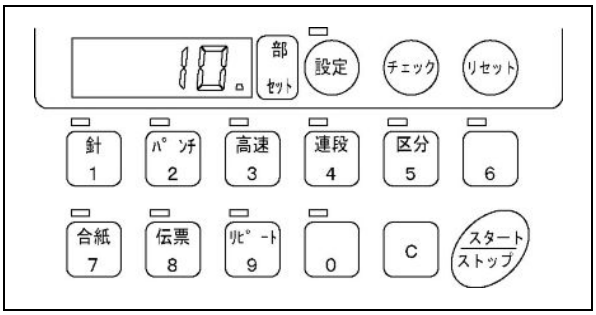
（3）メモリＡ～Ｄに相当するキーを押して設定値を呼出します。
メモリＡ～Ｄはそれぞれ
メモリＡ：「１」キー
メモリＢ：「２」キー
メモリＣ：「３」キー
メモリＤ：「４」キー　　に対応しています。
メモリの呼出しをキャンセルする場合は「リセット」キーを押します。



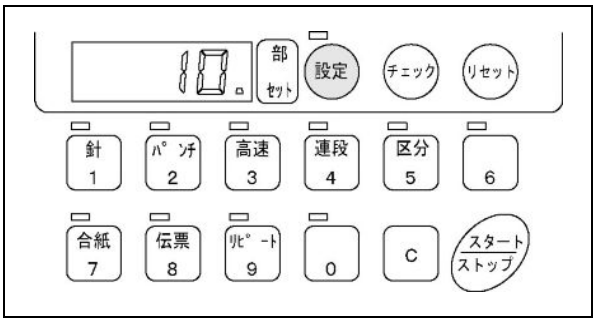
５．１０　リピート機能

リピート機能は、設定部数毎に区分け動作を入れるモードです。伝票の綴り部分のみを作成する場合に便利です。

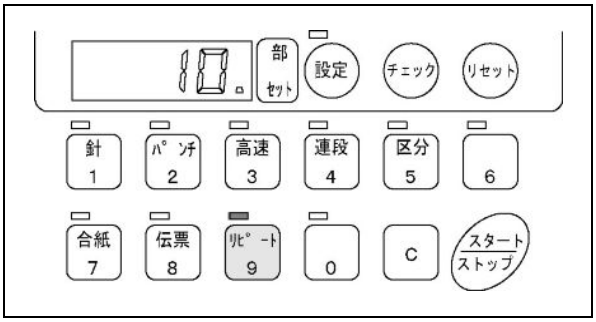
（1）区分けを入れる部数を設定します。



（2）「設定」キーを押して設定モードに切替えます。
（設定ランプ点灯）



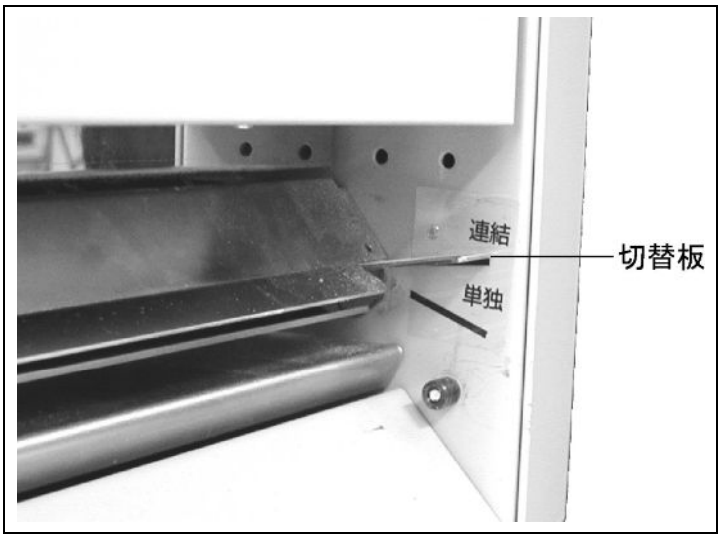
（3）「リピート／９」キーを押してリピートランプを点灯させます。



５．１１　単独／２台連結の切替え

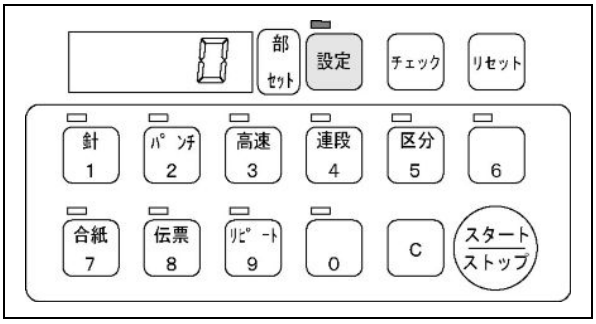
単独／２台連結を切替えるには、次の２つの方法があります。

（ａ）Ｒタワーの排紙切替板を切替える。

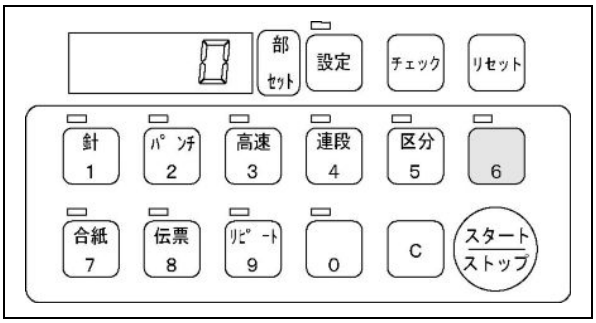


（ｂ）Ｒタワーの排紙切替が左の時に以下のキー操作を行う。

（１）「設定」キーを押して設定モードに切替えます。（設定ランプ点灯）



（２）「６」キーを押してランプを点灯／消灯させます。
点灯時：２台連結
消灯時：Ｌタワー単独

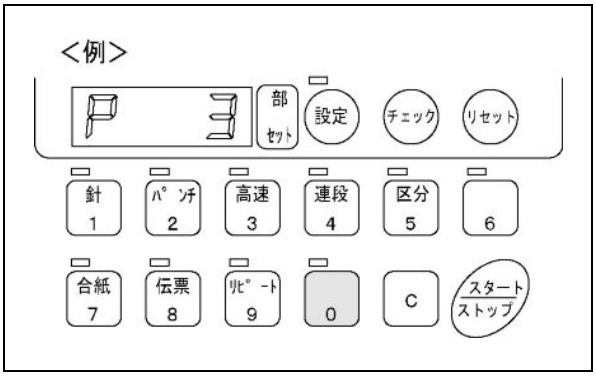


５．１２　給紙発光強度の変更

コレーターはチェック時に用紙の厚みを検知して自動的に発光強度を調整しますが、初期設定された発光強度が強すぎた場合、薄い紙を給紙した時に給紙したにもかかわらず空送りと判断する事があります。これは、用紙の厚みに対して発光強度が強すぎたため光の透過量が多くなり、センサーが紙を検知できなくなるために起こります。このような場合、手動で発光強度を設定し直す必要があります。
発光強度を設定するには、システム定数“Ｐ”の値を変更する必要があります。
数回用紙チェックを繰り返すと、繰り返すたびに用紙の厚さに適した発光強度を自動的に順応させます。

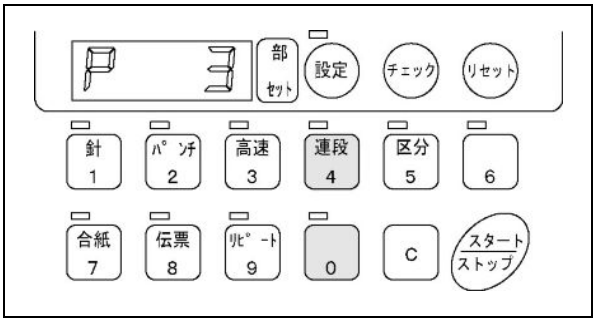
5．１２．１　システム定数“Ｐ”の変更

（1）「0」キーを３秒以上押し続け、システム定数設定モードに移行するとカウンターに〔Ｐ　　○〕が表示されます。（○は現在の設定値：１～９，Ａ，ｂ，Ｃ，ｄ，Ｅ，Ｆのいずれかの値をとる）
システム定数は、１９項の設定が可能です。
「設定」キー　　：次の項目に移動
「リセット」キー：前の項目に移動
「チェック」キー：一時変更して終了
「スタート」キー：記憶して終了



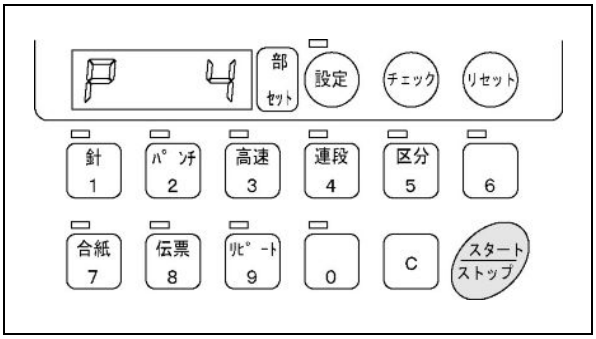
（2）「4」キーで発光強度が＋１、「0」キーで発光強度が－１されます。

ポイント！
工場出荷値は、３～４の値をとります。
（上質５５kgの用紙で調整）



（3）「スタート」キーを押して変更した値を記憶させます。

ポイント！
「スタート」キーを押して終了した場合、設定値は電源を切っても記憶されます。
一方、「チェック」キーを押して終了した場合は、電源を切ると設定値は変更前の値に戻ります。一時的な変更をする場合は「チェック」キーでシステム定数設定モードを抜けてください。



6．　保守・点検・消耗品

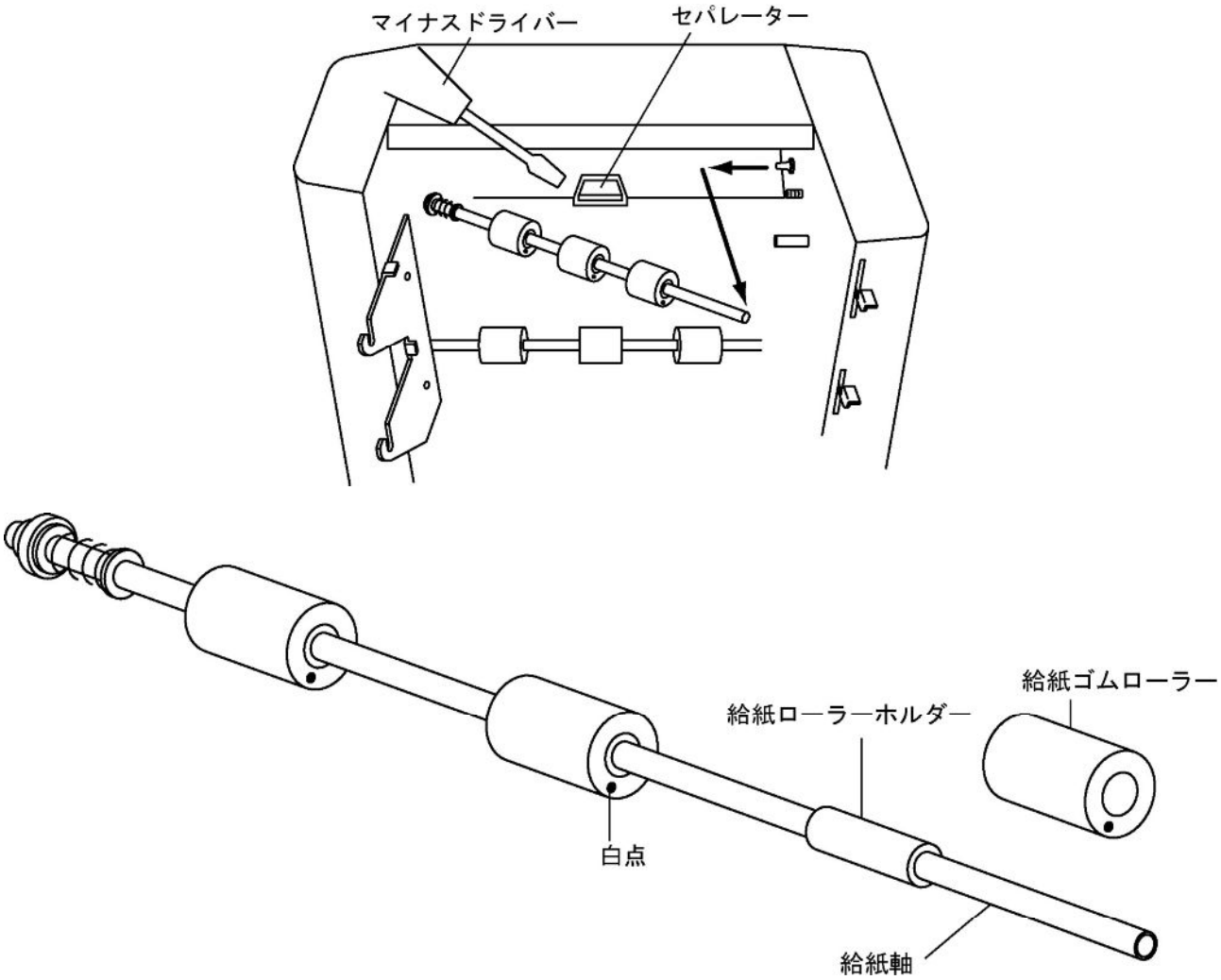
6．１　点検・お手入れ時の注意事項

⚠ 警　告

点検・手入れ時には電源プラグをコンセントから抜いてください。
けが・感電の恐れがあります。

6．2　日常のお手入れ

・給紙ゴムローラー・セパレーターの清掃



（1）補助テーブル、給紙テーブルを取外し、給紙軸部分を持って軸を左に押し込み、手前に引き抜きます。給紙ゴムローラーの位置がずれた場合は、３個のうち中央の給紙ゴムローラーがセパレーターの中央に位置するよう直してください。
（2）外した給紙軸の３個の給紙ゴムローラーをゴムローラー専用クリーナー※を染み込ませた布で汚れを落としてください。同様に、セパレーターの汚れも落としてください。セパレーターは機械についたままで清掃します。
（3）外したときと逆の要領で給紙軸を取付けます。

※ゴムローラー専用クリーナー　ＬＧ－ＣＬ５００　：注文コード　８４６－２４

ポイント！

清掃しても空送り、重送などのトラブルが発生する場合は、給紙ゴムローラー、セパレーターが消耗しています。前ページを参考に給紙ゴムローラー、セパレーターの交換をしてください。給紙ゴムローラーをセットするときは、給紙ゴムローラーの白点が右側になるよう注意してください。また、給紙ローラーホルダーに給紙ゴムローラーをセットした後は、机の上等平らな所で給紙ゴムローラーを回転させて平らに取付けられているか確認してください。(歪んで取付けられていると給紙ミスや重送等給紙トラブルの要因になります)セパレーターを取外す場合は、マイナスドライバー等を使用してください。
給紙ゴムローラー交換時は、紙検ワイヤーでけがをしないよう注意してください。

・外装部の清掃

中性洗剤を薄めたものを布に含ませた後、固く絞ってから汚れを拭き取ってください。

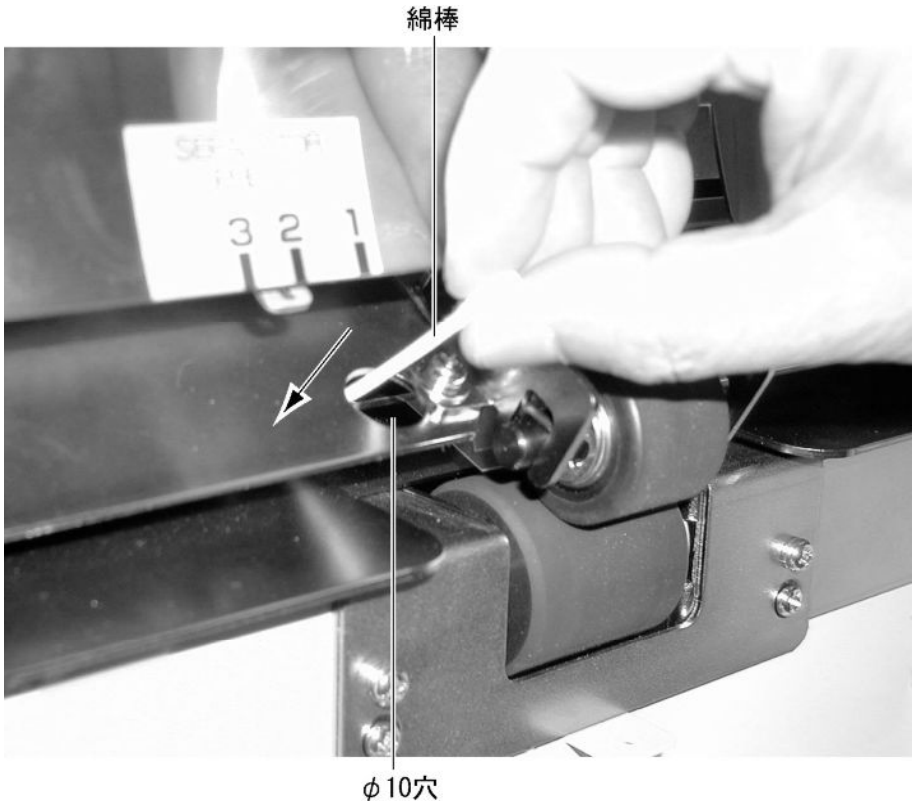
注意！

溶剤系の洗浄液は変色の原因となるので使用しないでください。

・フォトセンサーの清掃

使用していると用紙の紙粉やインク等が出て、排紙フォトセンサー(←の内部にあります)の表面に付着して、フォトの光を遮断してしまいます。そうすると排紙ジャムとなります。そのため、定期的に排紙フォトセンサーを清掃してください。

清掃方法：排紙上ガイドの直径 10 ㎜位の穴から綿棒(先端を濡らす)を入れて、フォトセンサーの表面を清掃します。排紙フォトセンサーは、直径 10 ㎜位の穴から覗くと(直径 3 ㎜位の豆球)見えます。



6．3　消耗品について

製品に使用されている給紙ゴムローラー・セパレーターは消耗品です。交換が必要な場合は、販売店までご連絡ください。

９４１－４２　丁合機ゴムローラーセット ＬＣ－Ｒ３０Ｓ（給紙ローラ ３０個入り）

7．　トラブル時の処置

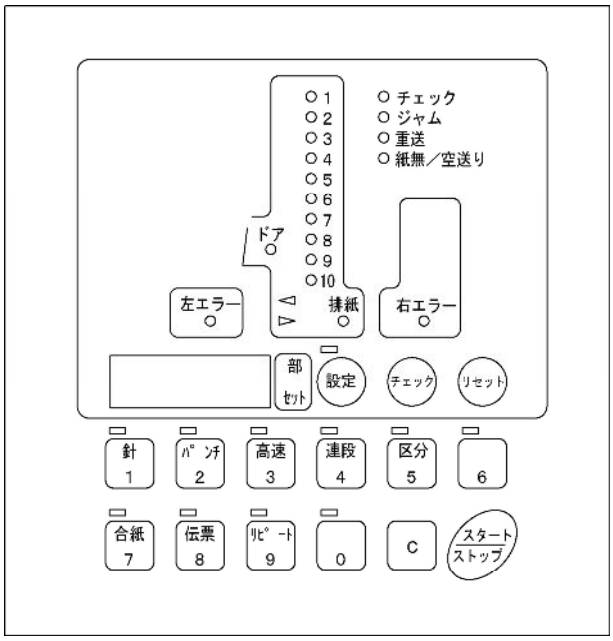
7．1　ランプ点灯／点滅時の対処

紙無／空送り，ジャム，重送ランプ点滅時は、排紙された用紙の最後の１部を抜き取ってください。
エラーの部数は、カウントされないため抜き取られた状態がカウンター部数＝排紙部数となります。

現象	原因	対策
チェック （緑の点灯）	正常動作中	使用段と紙厚のチェックを行う
紙無／空送り （緑の点滅）	用紙が終了または空送りが発生した段のランプが点滅 カウンター表示：Err(空送り) End(紙無し)	用紙を追加する
		用紙をよくさばく
		給紙圧を１段強くする
		用紙の表／裏を反転する
ジャム （赤の点滅）	用紙が途中で詰まった時、エラーの発生している段と紙詰まりのランプが点灯 カウンター表示：Ｅｒｒ	用紙をよくさばく
		セパレーター圧を１段弱くする
重送 （赤の点滅）	重送が発生した段と重送のランプが点滅 カウンター表示：Ｅｒｒ	用紙をよくさばく
		セパレーター圧を１段強くする
		給紙圧を１段弱くする
		同じ段に紙質や印刷の違った用紙が混在する場合に発生する。必ず同一種類の紙質をセットする
		重送された余分なページを排紙テーブルから取除く
排紙 （赤の点滅）	排紙テーブル上に用紙が満杯及び排紙詰まりが発生している カウンター表示：Ｅｒｒ	満杯になった用紙及び詰まった用紙を取除いてから「リセット」キーを押す
排紙 （赤の点灯）	排紙フォトがさえぎられている カウンター表示：Ｅｒｒ	排紙テーブルが正しくセットする
		コレーター本体を水平な場所にセットする
		排紙フォトセンサー（右・左）の紙粉を除去する ＜30 ページ参照＞
ドア （赤の点灯）	バックドアが開いている	バックドアを閉める（しっかり固定する） 動作中にバックドアが開いた時は赤の点滅になる。その時はバックドアを閉めて「リセット」キーを押す
「チェック」キーを押して用紙のチェックを行った時、重送が発生していないのに段のランプが赤で点滅	給紙フォトの発光が用紙の厚さに対して明るすぎるまたは暗すぎる 明るすぎ：速い点滅 暗すぎ　：遅い点滅	「チェック」キーを押して数回用紙チェックを繰り返す。チェックを繰り返すたびに用紙の厚さに適した発光感度を自動的に順応させる

現象	原因	対策
「チェック」キーを押して用紙のチェックを行った時、正常に給紙しているのに段のランプが緑で点滅	給紙フォトの発光が用紙の厚さに対して極端に明るすぎる	**「５．１２給紙発光強度の変更」**参照 （１）発光強度を初期値に戻す 電源スイッチを切り、「クリア」キーを押しながら電源スイッチをＯＮする （２）発光強度を変える ①「０」キーを秒以上押すとカウンター表示が「Ｐ３となり、給紙フォト発光強度が表示される（通常は「Ｐ３」、「Ｐ４」が初期値） ②「スタート/ストップ」キーを押してセット完了

点滅を解除するには「リセット」キーを押してください。
点灯の場合は、トラブルが取除かれた時消灯します。



7．2　トラブルの内容と処置

現　象	原　因	処　置
電源スイッチを入れてもカウンターに何も表示されない	電源プラグが抜けている	電源プラグを確実に差し込む
	ブレーカが働いている	ブレーカをリセットする
	機械内部の異常	販売店へ連絡する
「スタート」キーを押しても機械が動かない	用紙チェックがされていない カウンター表示「　　」のままでピピーと音がする	「チェック」キーを押して試し送りをする
「チェック」キーを押しても機械が動かない（操作部に異常ランプが点灯・点滅している）	バックドアが開いている	確実に閉じる
	排紙満杯または排紙部紙詰まり発生	用紙を取除く
	給紙部で紙が詰まっている	用紙を取除く
	ステープラパンチ使用時、ステープラパンチ内で紙詰まり・針無しブレーカ切れ等が発生している	原因を取除く
	機械内部の異常	販売店へ連絡する
「スタート」キーまたは「チェック」キーを押して機械は作動するが紙を送らない	用紙のセット不良	用紙を各段に確実にセットする
排紙詰まりが多発する及び排紙が不揃い	排紙テーブルの用紙ガイド類の設定位置がずれている	用紙ガイド類の位置を再調整する
	排紙ワイヤーのセット不良	正しくセットする

現　象	原　因	処　置
紙詰まり・重送・空送りが多発する	給紙ゴムローラーが汚れている	給紙ゴムローラーを清掃する
	セパレーターが汚れている	セパレーターを清掃する
	用紙がカールしている	カール矯正後給紙テーブルにセットする
	給紙ゴムローラーが摩耗している	給紙ゴムローラー交換する（販売店へ連絡）
	セパレーターが摩耗している	セパレーターを交換する（販売店へ連絡）
	電源ＯＮのまま給紙テーブルを着脱した	一度電源をＯＦＦしてから給紙テーブルを再セットする
用紙が途中で止まる	電源等による電源ＯＦＦ	「リセット」キーを３秒以上押してメインモーターを回転させて取出す
重送が多発する	セパレーター圧が弱い	セパレーター圧を強くする
	給紙圧が強い	給紙圧を弱くする
空送りが多発する	給紙圧が弱い	給紙圧を強くする
	セパレーター圧が強い	セパレーター圧を弱くする
	コピーした用紙で先端がカールしている	用紙の表／裏を反転させて再セットする
用紙が汚れる	給紙ゴムローラー・セパレーター・搬送ベルトが汚れている	各ローラー・ベルトを清掃する
排紙ランプ点灯	排紙テーブルセット不良	正しくセットする
	本体及び排紙テーブルが水平でない場所に設置されている	水平な場所に設置する
	機械の排紙部分に直射日光があたっている	カーテン等で光を遮り光があたらないようにする、または機械を直射日光のあたらない場所へ移動する
	排紙フォトセンサーが汚れている	排紙フォトセンサー(右・左)の紙粉を除去する　＜30 ページ参照＞
丁合の処理速度が急に速くなる	機械動作中に排紙部に手や異物が侵入し排紙センサーが誤動作する	機械動作中に排紙部に異物が侵入しないようにする
	本体及び排紙テーブルが水平でない場所に設置されている	水平な場所に設置する
	機械の排紙部分に直射日光があたっている	カーテン等で光を遮り光があたらないようにする、または機械を直射日光のあたらない場所へ移動する
1 枚しか給紙されていないのに重送を表示	同一段の中に紙質の異なる用紙が混在している	同一段の中には同じ紙質の用紙を使用する
	同一段の中に印刷の異なる用紙が混在している	同一段の中には同じ内容の印刷物を使用する
	仕様外の用紙を使用している	仕様内の用紙を使用する
各段のランプが上下に点灯・消灯・移動を繰り返す	テーブル昇降モーターまたはその他電気部品の故障	販売店へ連絡する
カウンタ表示部に「Lock」が出て機械が停止する(区分け「入」に切替えても排紙テーブルが左右に動かない)	排紙テーブルが本体に正しくセットされていない	「4.1.4　排紙テーブルのセット」参照
排紙テーブルが動かない	区分け無しの設定になっている	区分け設定を有りの設定にする。 P22　5.5「区分け有／無」参照

7．3　故障の場合

修理が必要な場合は、販売店までご連絡ください。

8．　移設または廃棄するとき

8．1　移設

8．1．1　旧設置場所からの撤去作業

電源プラグをコンセントから抜き取る。

8．1．2　運搬

・取外した部品や付属品、取扱説明書を一緒に運ぶ。
・強い振動や衝撃を与えないようにする。

8．1．3　移設先での設置

新設の場所と同様、全ての作業を行ってください。

8．2　廃棄

廃棄する際は、各地方自治体の政令に従い産業廃棄物処理業者に依頼するなど、適切な処理をしてください。

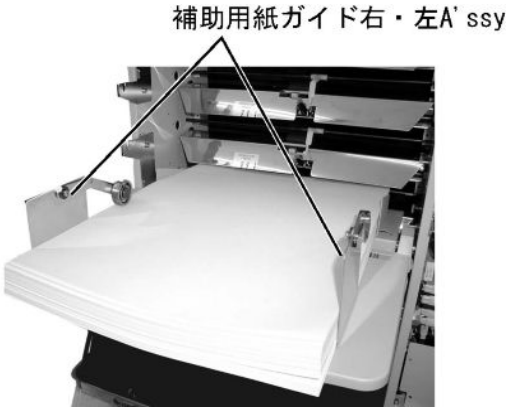
９．　製品仕様

９．１　仕様

丁合段数	10段
給紙方法	ローラーセパレーター方式
各段給紙積載量	28㎜（上質紙55kg　350枚相当）
搬送方法	ベルトローラー式
排紙積載量	65㎜（上質紙　800枚相当）
排紙区分方式	20°左右インデックス方式／棒積み切替え
処理速度	40･60セット/分（A4使用時）
用紙サイズ	Ａ３ＳＲ・Ａ３・Ｂ４・Ａ４・Ｂ５・Ａ５・はがき・システム手帳
紙質	上質紙（45～130kg）・中質紙・上質孔版紙・更紙
使用給紙段検知	「チェック」キーによる試し送りで使用段数をチェック
使用紙質検知	「チェック」キーによる試し送りで各棚の用紙厚さをチェック
給紙ミス検知	空送り・紙無し・紙詰まり・重送（光センサーによる検知）
その他の検知	排紙テーブル用紙満杯検知・排紙詰まり検知・バックドア開閉検知 （オプションの後処理機装着時針なし検知・紙詰まり検知） カウンターデジタル表示4桁・加算/減算（プリセット）切替え可能
付加機能	・給紙テーブル自動昇降 ・連段切替え（各2段を1段として使用） ・合紙挿入（指定セットごとに合紙を挿入） ・プログラム合紙（1段目に表表紙、10段目に裏表紙をセットし、システム手帳・伝票等の丁合用として使用） ・給紙圧3段（1段目・10段目が4段切替え、2～9段目が3段切替え） ・セパレーター圧3段（銘板に表示はないが4段目内蔵･･･特殊な用紙に使用）
電源	ＡＣ100Ｖ　　50/60Hz
消費電力	200W
機械寸法	W545×D760×H1056㎜
機械質量	76Kg

※仕様は改良のため予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

９．２　オプションについて

オプション部品	個数	図
補助用紙ガイド右Ａ’ssy 補助用紙ガイド左Ａ’ssy （Ａ３ＳＲ判用）	各１０	

メモ

取扱説明書

卓上オートコレーター　LC-400

修理・その他ご不明な点については、お買い求めの販売店もしくはお客様相談室へご連絡ください。

お客様相談室
〒１６４－０００３　東京都中野区東中野 2 丁目 6 番 11 号
ＴＥＬ　フリーダイヤル　０１２０－０７４４１６
ＦＡＸ　フリーダイヤル　０１２０－４０２５３９

株式会社 ライオン事務器

本　　社	〒164-0003	東京都中野区東中野 2 丁目 6 番 11 号	TEL03-3369-1111
東京本店	〒103-0004	東京都中央区東日本橋 2 丁目 24 番 14 号	TEL03-3865-1211
大阪本店	〒577-0003	大阪府東大阪市長田中 3 丁目 100	TEL06-6747-5681